

松江城(千鳥城)(国宝(天守), 国史跡, 百名城)(松江市殿町)(松江城山公園)

松江城（まつえじょう）は、島根県松江市殿町にある日本の城跡。別名・千鳥城。現存天守は国宝に、城跡は国の史跡に指定されている。この他に日本さくら名所 100 選や都市景観 100 選に選ばれている。

江戸時代には松江藩の藩庁として、出雲地方の政治経済の中心となったが、明治時代初頭に廃城令によって存城処分（陸軍省所管）となったため、天守以外の建物はすべて払い下げられ撤去された。城跡は現在、松江城山公園として利用され、また、江戸時代初期建造の天守を有する城跡であり、天守は山陰地方の現存例としては唯一である。天守からは宍道湖を眺望できる。天守内部には松江市街のミニチュア模型が展示されている。現在、指定管理者制度に則り、特定非営利活動法人松江ツーリズム研究会が運営をしている。

歴史・沿革

前史

鎌倉時代から戦国時代かけて、この地に末次城（末次の土居）が置かれた。

築城

- 1600 年（慶長 5 年） 関ヶ原の戦いで戦功のあった堀尾忠氏（堀尾吉晴の子）が、24 万石を得て月山富田城に入城し松江藩が成立。月山富田城は中世山城であり近世城下町形成には不利であったので、末次城跡を近世城郭の候補とした。
- 1607 年（慶長 12 年） 末次城のあった亀田山に築城を開始。
- 1611 年（慶長 16 年） 冬、松江城落成。（堀尾吉晴はこの年 6 月に完成目前で急死している。）
- 1633 年（寛永 10 年） 堀尾忠晴没、嗣子なく堀尾氏は 3 代で改易となった。
- 1634 年（寛永 11 年） 京極忠高が若狭国小浜藩（若狭・越前敦賀郡）より出雲・隠岐両国 26 万石で入封。三の丸を造営し、ここに松江城の全容が完成した。
- 1637 年（寛永 14 年） 忠高が嗣子なく没し京極氏は一時廃絶（のちに他国で再興される）。
- 1638 年（寛永 15 年） 信濃国松本藩より松平直政が 18 万 6 千石で入封。以後、明治維新まで続く。

近現代

- 1871 年（明治 4 年）：廃藩置県により、廃城となる。
- 1873 年（明治 6 年）：廃城令が公布され、天守を除く建造物は 4 円から 5 円（当時の価格）で払い下げられすべて撤去された。天守も 180 円で売却されることとなったが、出雲郡の豪農の勝部本右衛門や元藩士の高木権八が同額の金を国に納めるかたちで買い戻され、保存されることとなる。
- 1889 年（明治 22 年）：当時の島根県知事、籠手田安定によって「松江城天守閣景観維持会」が組織される。
- 1934 年（昭和 9 年）：国の史跡に指定される。
- 1935 年（昭和 10 年）：天守が当時の国宝保存法に基づく国宝（旧国宝。現行法の重要文化財に相当）に指定される。
- 1950 年（昭和 25 年）：文化財保護法の施行に伴い、天守は重要文化財に指定される^[3]。
- 1950 年（昭和 25 年）6 月 1 日～1955 年（昭和 30 年）3 月 - 天守の解体修理が行われた。費用は当時約 5300 万円。
- 1960 年（昭和 35 年）：本丸一ノ門と南多聞の一部を復元。
- 1992 年（平成 4 年）：都市景観 100 選に選ばれる。
- 1994 年（平成 6 年）：三の丸と二の丸を結ぶ廊下門（千鳥橋）と二の丸下段の北惣門橋（旧眼鏡橋）を復元。
- 2000 年（平成 12 年）：二の丸南櫓と塀（40m）を復元。

- 2001 年（平成 13 年）：二の丸に中櫓・太鼓櫓と堀（87m）を復元。
- 2006 年（平成 18 年）4 月 6 日：日本 100 名城（64 番）に選定された。
- 2007 年（平成 19 年）4 月～2011 年（平成 23 年）12 月 - 「松江開府 400 年祭」が行われた。
- 2015 年（平成 27 年）7 月 8 日：天守が国宝に指定された。国内の城跡で天守が国宝に指定されるのは 63 年ぶり 5 件目。

縄張り・作事

軍学者の小瀬甫庵、土木職人の稲葉覚之丞らが設計に携わった。松江市街の北部に位置し、南に流れる京橋川を外堀とする輪郭連郭複合式平山城である。宍道湖北側湖畔の亀田山に築かれ、日本三大湖城の一つでもある。なお、城の周りを囲む堀川は宍道湖とつながっており薄い塩水（汽水域）である。構造は、本丸を中心に据え、東に中郭、北に北出丸、西に後郭、東から南にかけ外郭、西から南にかけ二の丸が囲む。二の丸の南には一段低く三の丸が配されている。軟弱地盤の上に建てられたため、建築から数十年ほどで傾きだしたと言われる。

天守

天守は外観 4 重内部 5 階地下の穴倉 1 階、天守の南に地下 1 階を持つ平屋の付櫓を付ける。外観は重箱造の二重櫓の上に 3 階建ての櫓を載せたようなもので 3 重目の南北面に入母屋屋根の出窓をつけている。意匠は下見板張りで桃山文化様式である。1・2 階平面は東西 12 間に南北 10 間あり、高さは、本丸地上より約 30m（天守台上よりは 22.4m）ある。窓は突上窓と火灯窓あり、2 階に 1 階屋根を貫くかたちで開口した石落しが 8 箇所あることを特徴としている。地下の井戸は城郭建築では唯一の現存例である。最上階は内部に取り込まれた廻縁高欄があり、雨戸を取り付けている。鯨は、木製の銅板張で現存天守の中では最大の高さ約 2m。現在の鯨は昭和の修理の際に作り直されたもので、旧鯨は別途保管展示されている。また、石垣は「牛蒡積み」といわれる崩壊しない城石垣特有の技術が使われている。

城下町

亀田山は北の奥谷方面から続く丘陵の南端にあたり、現在松江北高校のある赤山との間には宇賀山と呼ばれる丘陵があった。本丸北側の内堀開削は宇賀山を開削する大工事となり、大量に出た土砂は城下の整備に利用された。

松江城のある大橋川以北の島根郡側では、殿町・母衣町・田町・内中原町・外中原町などが武家屋敷地、京橋川以南の末次が町人地に割り当てられた。大橋川以南の意宇郡側では、白潟が町人地と寺町に割り当てられ、松平氏時代になると天神川以南の津田街道（山陰道）沿いに足軽町（雑賀町）が建設された。

- 塩見縄手（旧武家町） - 北堀川周辺の、松江藩家老の塩見家の屋敷があった地区。松江市伝統美観指定地区になっているほか、日本の道 100 選に選ばれている。武家屋敷、明々庵、小泉八雲記念館、小泉八雲旧居、田部美術館など。

Wikipedia による

